

今泉 洋の



# What's Cool



モノは使いよう リサイクルでアート  
 Museum of International Folk Art Home  
 URL <http://www.state.nm.us/MOIFAOnline/MOIFAHome/MOIFAHome.html>

ニューメキシコ州のサンタフェにある国際民芸美術館のウェブである。

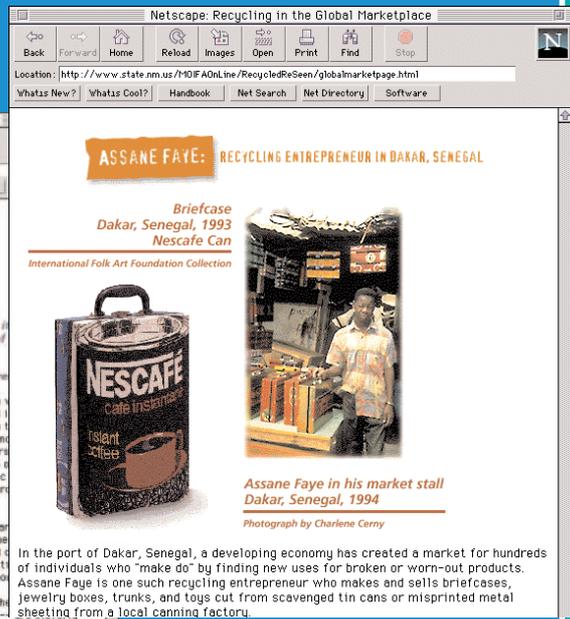
オールドソックスな民芸品やテキスタイルなど、世界100か国から12万点以上のオブジェを集めた常設展示も面白いが、現在開催されている「Recycled, Re-Seen exhibit」というページには要注目。というのは、ここに展示されているのは、文字どおり世界各地で毎日捨て

られている廃棄物（はっきり言えばゴミですね）で作ったアートの数々。これを見てモノの意味を見直そうという試みなのだ。

展示されているのは、ビール瓶のフタやプルタブで作られたオブジェをはじめとして、缶詰で作った楽器や古タイヤで作った水の容器、ネスカフェの缶で作ったブリーケースなど。

モノのあふれるアメリカで

瓶のフタやプルタブで作ったオブジェを見ても「連れてきたポップ」という感じしかないが、モロッコやセネガルなんかで半実用的なグッズを見つけたら、ついお土産に買ってみたいくなるに違いない。ちなみに、私のお気に入りにはメキシコ製のナンバープレートで作った「ちり取り」ウェブで買えるものなら是非注文したいんだが.....。



send a postcard Recycled, Re-Seen Exhibit | Happenings Museum Information | Permanent Collections **PLAY CONSIDER THE SOURCE**

The Museum of International Folk Art is a unit of the Museum of New Mexico which operates four museums in Santa Fe and five monuments throughout the state.

The Museum of New Mexico is a division of the State of New Mexico's Office of Cultural Affairs.

Our special thanks to The Brown Foundation and The Vaughan Foundation, Inc. for their generosity in funding this site.

This site is best viewed with the Netscape browser.

**Credits**

©1996 Museum of International Folk Art, Santa Fe, New Mexico  
 Copyright Statement

RECYCLED RE-SEEN RECYCLING IN THE GLOBAL MARKETPLACE

In our world of material wealth, where so many broken things are thrown away rather than mended...we forget that most of fixes everything and discards nothing.

—Stephen J. Gould, From Time

For many people throughout the world, the things from discarded material are necessary, not choice. Trash, in a relative term. With ingenuity and resourcefulness, these recyclers create something that is worthless to a society — a burned-out electric into something of value — a kern for immediate use.

Traditional craft skills — leather metallurgy, and blacksmithing — adapted to fit the burgeoning recyclers' trade. Although the discarded raw materials are quintessentially modern, the finished products often bear the imprint of age-old style, form, and tradition.

ASSANE FAYE: RECYCLING ENTREPRENEUR IN DAKAR, SENEGAL

Briefcase  
 Dakar, Senegal, 1993  
 Nescafe Can  
 International Folk Art Foundation Collection



Assane Faye in his market stall  
 Dakar, Senegal, 1994  
 Photograph by Charlene Corry

In the port of Dakar, Senegal, a developing economy has created a market for hundreds of individuals who "make do" by finding new uses for broken or worn-out products. Assane Faye is one such recycling entrepreneur who makes and sells briefcases, jewelry boxes, trunks, and toys cut from scavenged tin cans or misprinted metal sheeting from a local canning factory.

ショウビズ界での売り込みはこうやる！  
PROLOGUE

URL <http://www.verbaljudo.com/apple/>

メインページは真っ黒い画面に「FADE IN:」のひと言。いったい何が始まるか……と見ていくと、続いて黒い画面に文字だけで、どうやら映画の脚本風の展開。そして登場するのが断崖の上に立つドラマの脚本家とおぼしき男のシルエット。下にはロサンゼルス川(?)が……。

さて、ここで質問です。

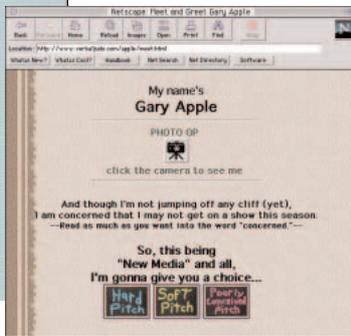
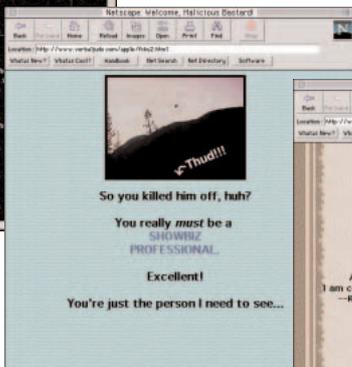
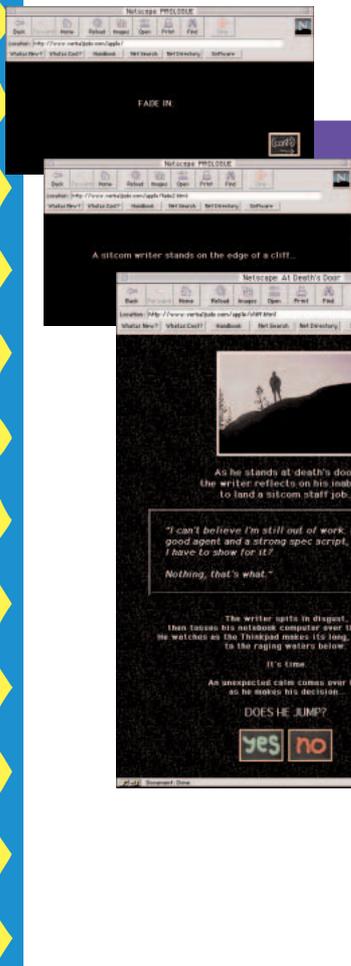
この男、飛び降りるのでしょうか？ それとも？

この問いに作者の思惑どおり応えたと「やっぱりそうじゃなくっちゃ。ショウビズ界のプロとお見受けしました。あなたこそ私が探していた人だ！」というオシとともに出てくるのが、なんとこのウェブページ作者ゲイリー・アップルの履歴書プレゼン。

というわけで、このページはエンターテ

メント業界で新たな職を求める売り込み広告。職業から他人を楽しませるテクニックを見せながら自分を売り込もうというもくろみが面白い。ちなみに、彼の思惑どりの選択をしなくてもそれなりに物語は続いていくのだが、こちらもなかなかシャレがきつくて楽しめる。

それはそうと、この人、新しいポストは見つかったのかな？

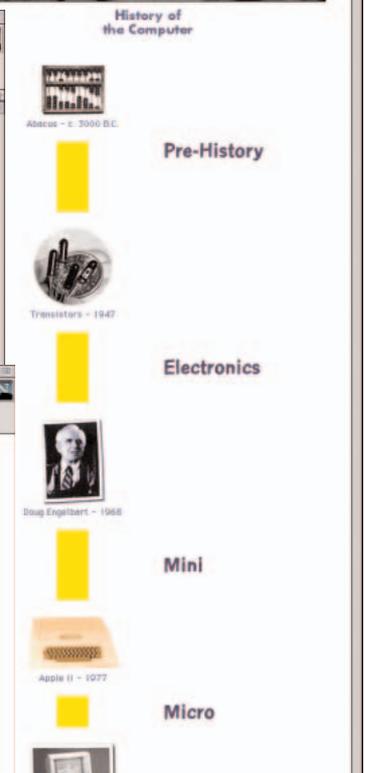


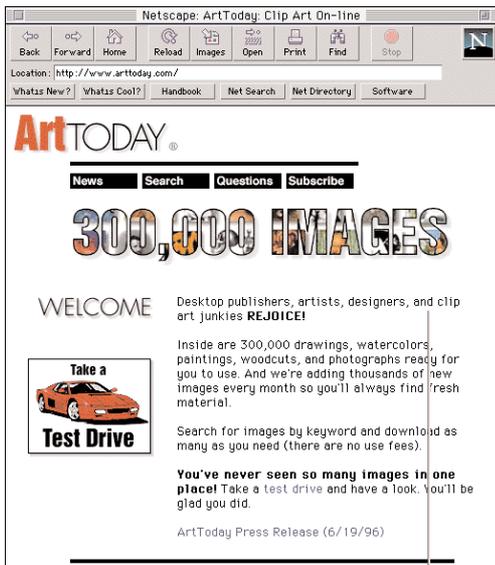
本場米国版「電子立国」をウェブで見る  
TRIUMPH OF THE NERDS: Welcome!

URL <http://www.pbs.org/nerds/>

先頃好評のうちに終了したNHKの連続特集番組「新電子立国」。あれを見て、なんだかうちの国がソフト化するのは先が長そうと思った人も多いに違いない。では、本場(?)アメリカでこの手の番組を作るとうなるか? その答えが「オタクの勝利」というすごいタイトルのこの番組。制作は米国のNHKにあたる公共放送(PBS)だ。番組の内容はVisiCalcの作者ダニエル・ブリクセン、あのビル・ゲイツ、スティーブ・ジョブス、ウォズニアクといった面々が登場し、米国のPC文化の発展をふり返るという趣向。このウェブページ

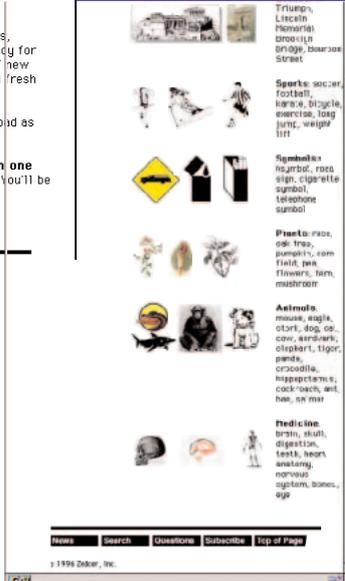
はそのウェブ版で、PCの歴史解説や番組内容のトランスクリプトに加えて、もはや博物館入りにでもなりそうな昔のPCの名前を当てるクイズなどがある。筆者はなんと全問正解したのだが、おめでとうメッセージの代わりに出てきたのは「だったらなげ億万長者になってないんだ?」というひと言。このキツさもお国柄ですね。それはともかくウェブを見ていくと、やっぱり番組そのものを見てみたくなる。番組のビデオが買えるサービスもあるので日本からも注文できそうだが、ひょっとしたらNHKあたりで放送してくれないもんだろうか?





## 年間1万円で30万点のクリップアートがダウンロードし放題！ ArtToday: Clip Art On-line

URL <http://www.arttoday.com/>



その方面に関わりのある方なら思い当たるところがあると思うが、ウェブページ流行の影響か、はたまたカラープリンター普及のためか、最近ではちょっとしたプレゼンテーションにも凝ったグラフィックスを使いたいという需要が増えている。

需要があれば供給が生まれるのは自然の流れ。「そんなとて頼りになる」という謙い文句で売られているのが、いろんなグラフィックス素材を集めてCD-ROMに収録したクリップアート集。値段も数千円程度からあってクオリティもそこそこ。となるとつい

い手が動いてしまうが、ここに強敵出現。なんと広告、動物、建築、アート、車、歴史上の人物、枠などの飾り、有名人の写真、教育、飾り文字、民族、地図、風景、スポーツ、シンボル、植物、医療イラストなど、収録総点数30万。しかも今年年間99ドル95セント(1日、1か月単位の契約もあり)でダウンロードし放題という太っ腹なサービスの登場。見本を見る限り、クオリティもなかなか。検索もできるし日本からの申し込みもOKとなると、これは関係者要チェックかもしれない。

## 「次の休暇こそは」とお考えのあなたにお勧めの冒険旅行 Adventure Travel - Home Page

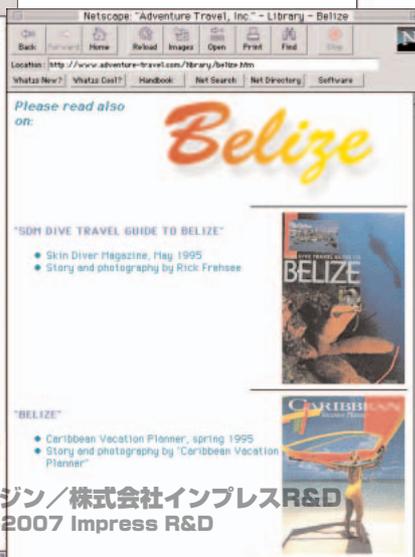
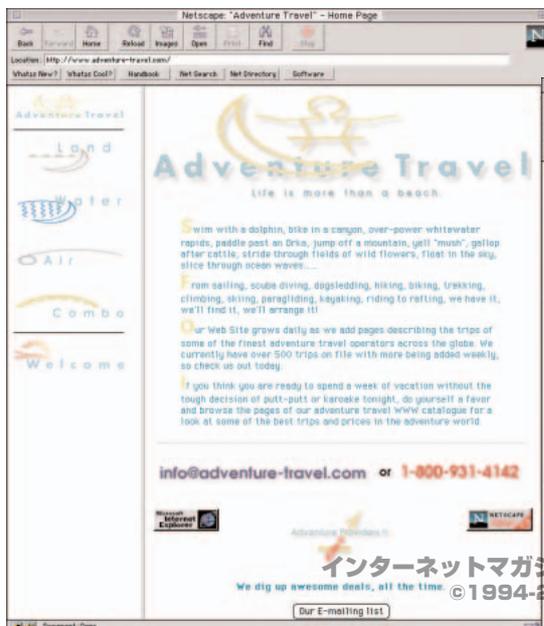
URL <http://www.adventure-travel.com/>

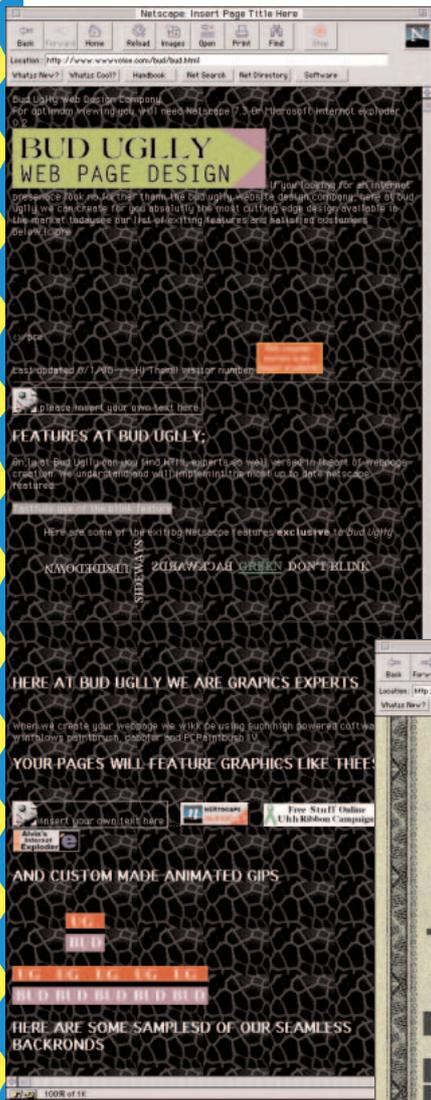
(自分のことはさておいて) 毎年のことだが、夏休み中の日本全国大移動×大渋滞にはうんざり……。やっぱり休暇というなら他人の行かないところにでかけて、日頃体験できないことをやってみたいというのが人情というものだろう。そういうイベント志向の旅

行好きにぴったりの冒険ツアープランを企画し、提供しているのが米国のアドベンチャー・トラベル社。

陸上ではトレッキング、乗馬、マウンテンバイク、スキー、海・河ではセーリング、カヤック、空では戦闘機の中戦シミュレーション、グラ

イダーなど、あらゆるアドベンチャー系のパッケージツアーを紹介している。またライブラリーにはスキューバダイビングやパラグライダー、乗馬旅行などの小冊子からの記事が収録されていて、デスクトップラベラーの冒険心をくすぐる読み物としても楽しい。





ウェブデザイナーという肩書きが職業分類に入るまでにはまだ時間がある(ずっと入らない?) かもしれないが、米国にはウェブのプロダクションが随々登場してメジャーな企業のウェブページの制作を請け負っている。そうしたプロダクションの宣伝活動は当然ウェブ上で行われ、サンプルページなどで自社の腕前を

アピールすることが多い。このページはそれをパロディーにした「サイター・みっともないウェブページデザイン」社のもの。

つづりは間違っ、カウンターは動いてない、みっともないリンクやいかにも趣味の悪いテキストチャー、リンクの張り間違え……という具合に、ありとあらゆるボケをかまして

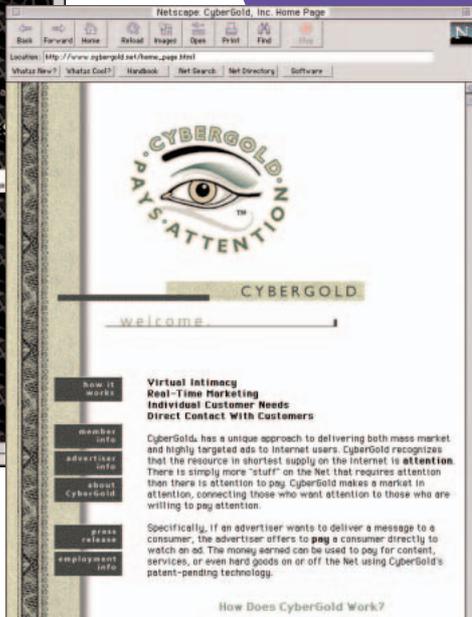
くれる。もっとも、よく見ていくと、かなり手の込んだ小ワザを使っていて、意味のないものだからこそ手をかけるというパロディーの本道が見えてくる。ウェブデザインの“オマチガイ”の数を数えて笑ったり感心して楽しんだりするには最適のページかもしれない。

Netscape 7.3がInternet explorer 0.2でご覧下さい?  
Insert Page Title Here

URL <http://www.wwwvoice.com/bud/bud.html>

実現するか? オンラインマーケティングのニューコンセプト  
CyberGold

URL <http://www.cybergold.net/>



インターネットの面白いところは、従来の常識ではまったく考えられない仕組みが(実験的にでも)作られてしまうところ。例えばこのウェブがもくろんでいるものもその1つだ。

カリフォルニア州パークリーに設立された新興マーケティング企業のサイバーゴールド社が計画しているのは、ウェブの利用者と広告主とのダイレクトな結び付きの演出。ウェブ利用者が自社の広告ページに注意を向けてくれれば、それだけで広告主にとっては価値があるはず。だから広告

を見た人に、その分お金を支払いましょうという仕組みだ。

残念ながら、原稿執筆時点では本格稼働前でユーザーおよび広告企業の登録を受け付けている段階だが、さてどうなるか? サイバーゴールドという名前はちょっと怪しいがこの業界では有名なレジス・マッケンナがガードメンバーに名を連ねているくらいだから、ひょっとしたら同社のサービスもインターネットならではの革命的な新マーケティング手法として注目されるかもしれない。

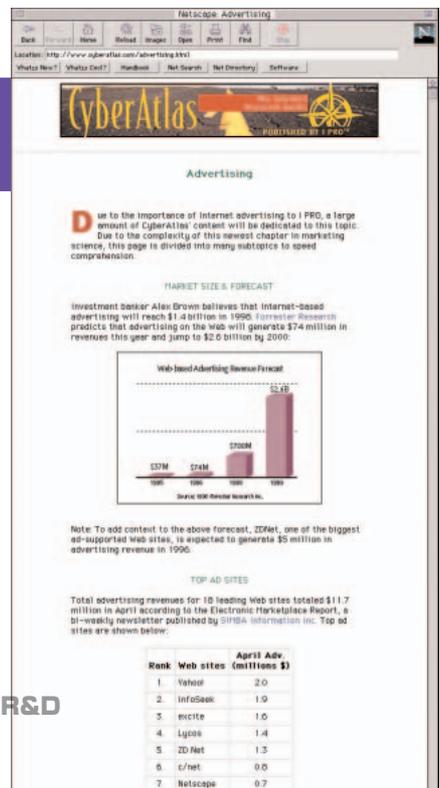
インターネットクイズ出題者のためのネタページ?  
CyberAtlas -- Page One

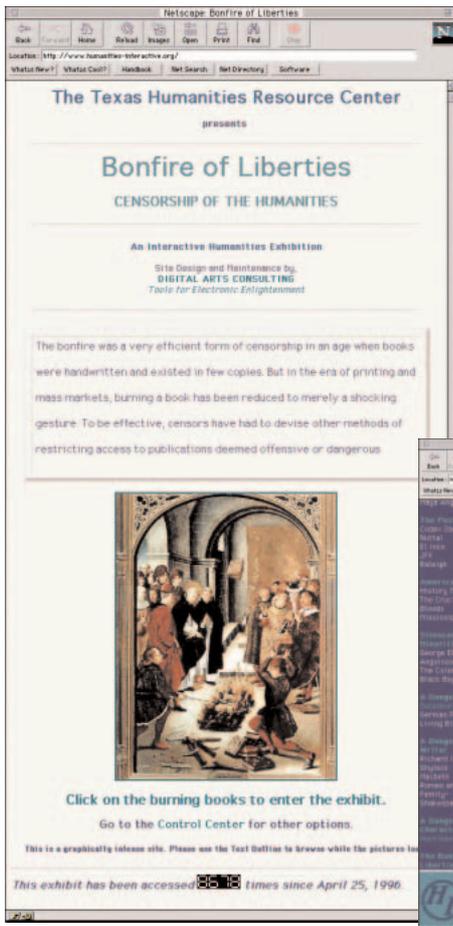
URL <http://www.cyberatlas.com/>

ネットワークというものは、本来分散的に増殖していく仕組みだということを多少なりとも理解していれば、全体を俯瞰するというのがいかに難しいことで、なおかつその苦労の割には意味がないことが分かるはずだ。それでもなお、階層型組織の上に立つ人々は「まず全体はどうなってるんだ?」とばかりにいろいろな質問を浴びせかけてくる。うーん、まったく……。

そんな時に役に立つのがこのウェブページ。残念ながら米国を中心としたものだが、インターネット世界

の様々な統計的データが掲載されているから、ある程度パッドチューニングな質問の嵐にも対応することができる。おまけに、米国の市外電話局番別で最も.comドメインの多いのはどこかと、対人口比でサーバーの数が一番多い地域はどこ……なんていうインターネット・トリビア的な情報も手に入るの、ちょっといざという時のためにブックマークを付けておいても損のないページである。





## インターネットの昨今の課題 = 焚書に始まる検閲の歴史をふりかえる Bonfire of Liberties

URL <http://www.humanities-interactive.org/>



ウェブの普及や拡大とともに、インターネット上の情報流通規制に関する法案が何度も米国議会に提出されていることはご存じのとおり。これに対抗するように、例の「ブルーリボンキャンペーン」が起こったり、代替プランとして未成年者のためのウェブフィルターが出現するなど、こうした動きは当面収まりそうもない。

だからこそ、一度は冷静にふりかえてみたいのが過去の検閲の歴史である。

「自由のかがり火」と題されたこのページは、ヒューマニティーの立場から出版物の検閲、発行禁止などがいかに行われたか、その事例を集め、解説したもの。今と比べてみると、なんでこんなものが発禁？と思わざるをえないようなものが、それぞれの時代、一般常識とのズレによって、どのように検閲されてきたかを豊富な事例で多角的に分析している。ホームページにブルーリボンを掲げようとするなら、この程度は読んでおくべきか？

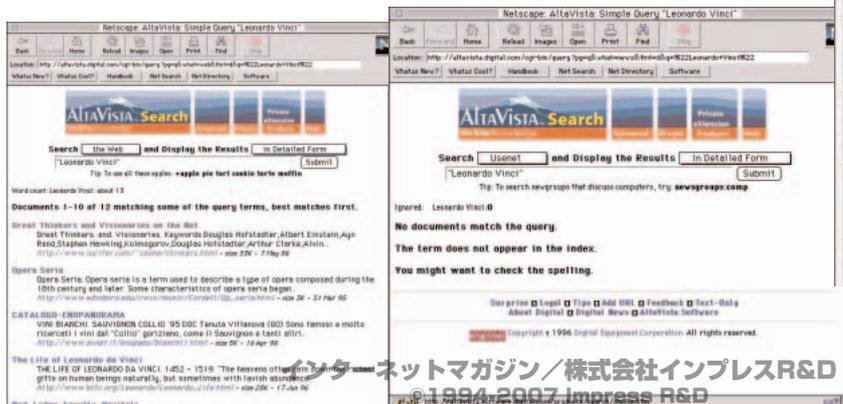
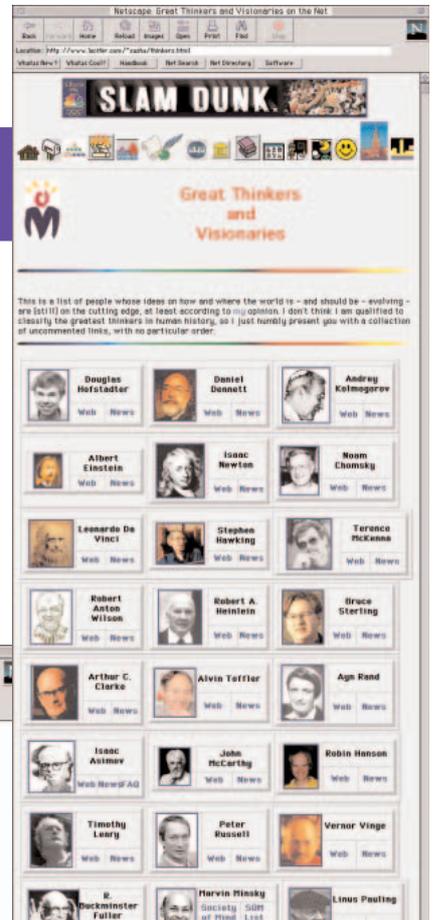
## 知識はネット上にあり。訳せよ、さらば与えられん？ Great Thinkers and Visionaries on the Net

URL <http://www.lucifer.com/~sasha/thinkers.html>

インターネットは知識の宝庫 & 言葉の壁は厚い.....という月並みな感慨を抱かせるのがダグラス・ホフスタッターからエリック・ドレクセラまで、ページ制作者の独断で選んだ偉大な思想家・ビジョンの持ち主についてのリソースをまとめたこのページ。  
レオナルド・ダ・ヴィンチやアイザック・ニュートンといった歴史上の人物から、ティ

モシー・リアリー、マービン・ミンスキー、ブレス・スターリングといったサイバーノーツお気に入りの人物が並べられており、「ウェブ」と「ニュース」のボタンが付いている。当然ウェブ上のリソースや関連のニュースが読めるんだろうと思ってクリックしてみると、実は両方とも「AltaVista」の膨大な検索結果（WWWとUSENET）が出てくるとい

う.....手抜きというが肩透かしというか。しかし、これはこれで貴重なポインターであることに変わりはない。  
このほか、認知科学の有名人、偉大な数学者、アナーキストや左翼人、作家と詩人、有名な科学者の写真を集めたサイトへのリンクもある。それにしても、英語が分かれれば世界はもっと広がるのですね。





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)